

市長選挙は3月25日執行
任期満了に伴う市長選挙は3月15日に告示し3月25日選挙を執行します
補充選挙人名簿の登録は3月15日より3月18日まで申請下さい
該当者は
(1)昭和16年12月22日から昭和17年3月15日まで生れた者
(2)昭和36年6月16日から昭和38年12月14日まで本市へ転入した者(美濃加茂市選挙管理委員会)

店報 ぬのかも

1982年（昭和57年）
3月13日
発行所
美濃加茂市役所
編集人
秘書課長 小藤 榮
印刷所
岐陽印刷所

市制満8ケ年間のあゆみと、新しい市政の方向を示す新年度予算を特集しました。

新年度より紙面を刷新し、毎月発行するなどみなさんのお役に立つよう広報公聴活動を充実します。

37年度予算きまる

般合計2億8408万8千円

第1回定例市議会終る

三月十日午前十時開会
れ、渡辺市長は予算編成方
針及び施政方針説明の冒頭
において、

「本市発足以来歳々々年
行財政上幾多の苦難と期間
を経て今日に至つたのであ
りますが、総合的にみると
き静かな発展物の一大主眼

昭和二十七年一度、特別会計不算など二十回件を審議する第一回定例市議会は三日十日開会、会期四日間にあたつて慎重な審議を続け、十三日の本会議で全件を原案どおり可決した。

新年慶賀予算は市政調八ヶ年間の成果のりまに立つた第三次段階として、木曾川を中心とした第三次産業開発と産業振興、豊かな市民生活の実現の三大業を新しい柱とした市政の積極的進展の諸施策が盛りこまれている。

以下その概要を特集する。

地を形成する田園都市とし、且つ中部経済圏、交通の要衝とし或は近く指定を受け、国定公園の中心になる鶴光都市として天恵的な立地により、木曾川を中心とした広域産業開発も嚮々と実現しつつあり、また木曾川右岸総合開発計画も測量に着手するなど划々と近代産業都市として面目を一新する時期を迎えつつあることに確信すると信じます。

先きに市政の基本方針として議会を始め、市広報等を通じて報告しました八段基本方針を、積極的に推進し市民福祉と本市発展のために総力を結集するよう實質的充実予算を編成致しましたので慎重なご審議をいただきたい」と述べると、次に二時間余にわたつて次のような詳細な説明をした

を思うとき、大局的立場にたつて将来の大勢を見極め百年の大計をあやまらず大勝平政、且つ積極的に諸施策を推進していくならば数年を出ずして必ずや飛躍的発展を遂げ市民福祉の増進

純総額三億四千五
実質的には

純總額三億四千五百四十三万円

實質的には五千七百余万円増

三十七年の新予算は総額二億五千八百萬三千九百円で特別会計との重複控除額、差引純計三億四千五百四十三萬一千五百円となつてゐる。

なお昭和三十六年度の新庁舎、し尿処理場建設費等の特定の継続事業が完成したので、これ等さし引くと実質的には五千七百万円が新年度は増となり各事業に廻るわけである。新年度予算の基本方針としては本紙前号特集の渡辺市長前年の市政方針である次の八大方針を基調としている。

1、木曾川の開発と木曾川を中心とした広域協力体制の整備

2、道路、交通、通信網の整備による産業基盤の確立

3、農産構造改善事業を推進し、豊かな農村の建設

4、中小企業対策、観光開拓、工場誘致による産業振興

5、福祉施設の推進と市民生活に直結する末端行政の向上による明るい豊かな市民生活の実現

6、文教施設の充実と推進

7、市民負担の軽減

8、行政近代化の推進

この八項目を基本方針とした重大継続事業で最後に残された東中学の完成とともに次のような新規事業を含めた諸施策が推進される。

才入

才入

本年度の市税総額は九千八百八十八万円を見込み、特に市民税の税率の引下げと扶養親族控除額の引上げその他税額控除の新設等税条例の改正により約五百四十万円の減税を行い、市民負担の軽減を計った。

尚その他の税については家屋の新築等課税物件の増加電気、たばこ等の需要増、或いは市民所得の自然増などが見込まれている。

その他より交付される地方交付税を八千五百万円込んでいるのが特徴である

三十五年度決算

一千四百六十六万円黒字繰越

市議会において認定された昭和三十五年度一般会計、特別会計ともいづれも黒字決算であり特に一般会計においては国よりの特別交付税の交付、潤滑な財政運用と経済の伸展に伴なり市税の増により健全財政を維持するとともに、

一、四六七、三九九円の黒字決算となった。

画期的な農業構造改善
土地改良の推進

農業センター建設費積立

構造改善の推進

ター建設費積立

物の企業化及び農業機械共同施設促進費の融資総額八千四百四十万円の利子補給や畜産団体強化育成、畜産センター、柿苗補助、養蚕、部落共同作業場、部落放送施設の補助など二百七十九万五千円。

農業団体育成、農協統合促進、農業改良クラブ活動費百二十一万円。

2土地改良事業一千万円余

新年度は事業費の大巾な増額と受益者負担を一割引

下げ、用地代を新たに計入するなど農家の負担軽減を計った。

農業構造改善に伴なう農業基盤整備として共同苗代耕畔コンクリート、農道歩道、二百十八万円を始めたとした二百十八万円、木曽川右岸用水調査費十万円、土地改良三百七十九万円、災害工事業費百万円、市単耕地改良三百二十万円、林道九十八万円。

3農村生活改善奨励費として鶴岡水道布設及奨励費百万円。

4病害虫防除費四十六万円を始め、農林振興費百六十一万円。

市道改良修繕工事一千万円

など産業基盤の確立

市道の防塵舗装と一般市道の改良に主力を注ぎ、市道の補修整備とともに、原材費の増強、トラブツクのダンプ改装によつて効率化と地元負担、労力の軽減に意を注いだ。

原材料費増加とダンプカーダンブパック二台改装四十万円材料石粉土砂千八百車分八十六万円などを始めとして道路橋梁維持修繕費に二百五十三万円を計上

重要市道防塵舗装
防塵舗装費百八十万円、橋梁工事費百二十万円、一般市道二百十万円その他改良

百四十万円、合計新設改良費七百四十七万円を計上。市内販賣道路等に一千万円宝仙坊トンネル、田畑一神淵線等の従前道や、古井一八百津線等重要県道、八路線を総事業費千二十三万円を計上

一級国道全線舗装を完了
吉井内国道四十一号線の年度内舗装の完了をまつて一級国道は全線舗装が完了することになり、また二級国道通都一岐原線の加茂野地内を引き続き施行する。交通、通商網の整備

古井小・山之上屋体建設など

文教施設の充実

1、東中学校の完成
第二期北倉四八坪の新年度
分千五百二十二万円。
2、山之上履休木造平屋建
一〇〇坪、五百四十五万円
で建設。
3、古井小学校旧古井中学
校への移転に伴う不足分、
四百坪鉄筋建の増築に二千
六百八十万円。
4、下米田、伊深小学校々
舎改築調査費の計上、伊深
小躯体補修に二十五万円、
太田、古井、峰屋、下米田
小補修に四十万円。
加茂野、峰屋、北中
市民負擔

市民負擔の軽減と

市民福祉の増進

都落集会所施設補助五
万円
勤労者会館の三十七年
費四十三万円
衛生センター完成に伴
う環境衛生の完備と小規
水道設置
又通安に対する対策と公園、
遊園地の整備
加茂野保育所の改修費

に増額計上した。
9、市民税五百四十万円の
減額
市民税の税率引下げと快費
控除の税額控除により約五
百四十万円の減税を行なう
10、給食補助、農業土木
の負担率や用地費を初め数
多く市民負担の軽減を計か
つた。

国定公園の指定による
観光開発と商工業の振興

飛脚、木曾川国定公園指定を授け観光ルートの開発や産業基盤の整備、都市排水衛生センターの完成など、都邑形態の拡充、工場誘致及び豊かな農村の実現成り、商工業の振興などにより、市民生活に活気を足し發展しようとしており、こうした一聯の振策とともに、①特に商工事業費二十五万円、商店街育成助成金二十一万円、商店街施設補助三十万円など、商工団体助成七十八万円計、商工費に百二十七万円計上。

②観光費として、観光協会事業補助二十万円、国定公園三十万円、伊深温泉開発三十万円、ユネスコスナルを始め観光施設企画調査など合計百二十七万円。

新年度予算		【一般会計】（円）	
款	予算額	前年度比	増減 （△＝減）
議員会費	7,526,000	2,417,500	
役所費	50,298,800	11,386,700	
消防費	11,130,000	4,722,700	
土木費	16,607,700	2,755,000	
教育費	73,653,500	16,040,700	
社会及労働施設費	40,507,500	1,672,400	
保健衛生費	3,616,100	△4,803,000	
	（し尿処理場完成のため）		
産業経済費	23,816,500	7,704,300	
地方振興費	6,416,500	2,382,000	
財産費	1,804,000	△85,473,000	
	（庁舎建設完了のため）		
統計調査費	26,000	5,500	
選挙費	2,479,000	1,953,800	
公債費	23,633,000	411,000	
諸支出金	30,274,200	4,825,200	
予算費	2,300,000	1,100,000	
合計	294,088,800	△12,899,200	
	予算額 前年度比（△減）		
【特別会計総計】	64,055,100	6,367,000	
重複額差し引計	345,431,500		



に古井、峰屋両局を

市、
グランドで盛大に行
典において、新市建
県下工場へ送電を開



市制施行3周年記念式典

が完成。
施設が完備した。
拡充が計られ市民課
所が連絡所に切替え



電報電話局

送水量—4,500電)給
万円にて永久橋架替
に決定、明年4月1日
された。
、高山線にて還幸啓
、竣工式挙行。



産業観光会館



太田中屋体

一竣工、これをもつ
城として、総事業費
種放逸、畜産振興の
田公民館にて開催さ
を中心として、河川
なった。
するために建設委員
促進することになつ



新農村



委員会に新市町村建
2時間瞬間最大風速
。主家476余を始め被害
きつて完成。
共施設と民力の復興
設は244地区3,050万
84万円。なお見舞金
損物資3749個。



第一期工事地鎮祭
万円を計上。
化熱受災者津田左



により着工。

- 5月12日 名誉市民津田左右吉博士を迎え顕彰式。
- 6月1日 木曾川右岸開発計画基礎調査始まる。
- 6月27日 近隣4町を含む可成衛生施設利用組合、議会第一回定例会。
- 8月16日 市議会全員協議会超党派的に渡辺市長を衆議院選に推薦。
- 9月15日 渡辺市長健康を害し、入院療養のため衆議院選立候補断念。
- 10月1日 名鉄、岐阜東合による名古屋直達バス開始。
- 10月22日 工場誘致豊田縫製会社操業開始。
- 11月6日 三和町甘屋分校竣工式。
- 22日 1市4町共同のし尿処理場、総工費5千万円で日本衛生KKにより建設されることになり、牧野の現地で起工式。
- 26日 新庁舎上棟式。
- 12月13日 飛騨、木曾川国定公園指定を厚生省に岐阜県、愛知県県より申請。

昭和36年 (1961)

- 1月28日 渡辺市長病後初登庁。
- 2月6日 小沢マヤの予防接種始まる。
- 3月1日 加茂野木野へ日新工業KKの工場誘致始まる。
- 17日 牧野緑が丘13haに4千万円を投入して造成されている名古屋営林局苗圃及び事務所開所式。
- 4月7日 東中学校開校式。
- 8日 加茂農林高等学校独立後初の入学式。
- 17日 市役所新庁舎開庁式。
- 5月16日 新庁舎竣工式。
- 市の象徴となり市民の福祉と繁栄につながる市政の中核機関である市庁舎は、総工費117,456,000円で鉄骨コンクリート3階一部4階、地階建坪、3,630m²(1,100坪)の新庁舎の竣工式が挙行され、松野鼠知事を始め自治省、大蔵省、関係者より市内公職者712名出席して盛大に挙行されるとともに、市民招待リクレーショなどで祝賀行事が繰り広げられた。
- 23日 1級国道41号線新設起工式。
- 6月27日 梅雨前線豪雨により木曾川大洪水太田町下町地区など床上浸水218戸。
- 9月16日 第二室戸台風により、農作物を中心に甚大な被害を受ける。
- 15日 東中学開校式。
- 第一期工事鉄骨コンクリート3階建2,324m²が完成。
- 古井教室の一部を除いて新校舎で授業を始める。
- 30日 国道21号線、全線完全舗装完成。
- 元消防署より古井、神羽空間650mの完全舗装完成。
- 10月14日 工場誘致した青山被服KK、太陽理化KK完成操業開始。
- 10月25日 工場誘致した日新工業KK操業開始。
- 11月4日 木曾川右岸用水改良事業期成同盟発足。
- 中部電力の高根ダムに水資源を確保し、総工費29億円余を投入し本地域農業工業、上水道など総合開発をするよう期成同盟を結成、渡辺市長を会長に選任。
- 11月10日 市章制定の告示。
- 17日 東中学第二期工事起工式。北舎の鉄骨コンクリート3階建1,160m²に着工。
- 23日 古井町神代鉄工場落成式。
- 12月4日 名誉市民津田左右吉博士逝去。
- 9日 飛騨、木曾川国定公園期成同盟会渡辺市長を会長に再選。

昭和37年 (1962)

- 1月4日 木曾川右岸用水、農林省の多目的ダム直轄調査費予算計上の内定。
- 25日 県道美濃一美濃加茂線宝仙坊トンネル貫通式。
- 27日 坪内道通顕彰碑除幕式。
- 本市の生んだ文豪坪内道通先生誕生の地である太田小学校前の庭園で挙行。
- 27日 加茂野町稲垣簡易水道工費300万円余にて着工。
- 2月6日 県立加茂農林高等学校開校。市より負担金680万円、敷地1万坪、取付道路の布設をしていて、建設費3,000万円による校舎等が完成、開校式を挙行。
- 1日 誘致した本田被服KK竣工式。
- 7日 木曾川右岸用水測量、名古屋農地事務所の直轄にて測量開始。
- 7日 県農業企業化資金、36年度分3,186万円の融資決定。
- 3月9日 先きに完成していた一級国道41号線、跨線橋が本日渡初めとなりこれにより新国道全線開通。
- 3月15日 電話が本日より名古屋とダイヤル即時通話となる。

市財政規模 (年度別決算)

年度	一般会計決算額(円)			一般会計歳入(主なもの)		
	歳入決算	歳出決算	差引残高	市	町	地方交付税
29	166,324,888	163,879,409	2,445,479	48,018,965	26,018,000	
30	148,924,258	148,872,545	51,713	54,375,388	29,965,000	
31	143,440,055	141,823,666	1,616,389	56,042,170	31,243,000	
32	153,822,936	146,924,744	6,898,192	63,446,900	38,787,000	
33	162,944,672	161,797,023	1,147,649	66,367,870	37,952,000	
34	194,462,735	187,720,367	6,742,368	69,433,700	47,903,000	
35	254,530,475	243,063,076	11,467,399	78,287,363	53,861,000	



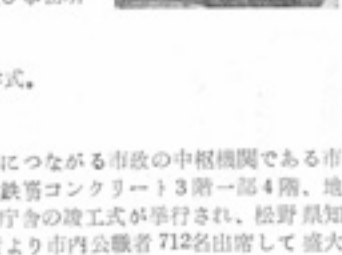
伊勢湾台風被害



名誉市民津田博士夫妻



新庁舎起工式



旧庁舎



新庁舎



東中学校



加茂農林高等学校



梅雨前線豪雨被害



宝仙坊トンネル

産業別就業人口

産業別	30年度		35年度		増減%
	人口	%	人口	%	
第一次産業	8,633		7,401		
第二次産業	38		44		
第三次産業	8,671	57.2	7,445	48.2	-9.0
第一次産業	224		162		
第二次産業	362		686		
第三次産業	1,603		1,982		
第一次産業	2,189	14.4	2,830	18.3	+3.9
第二次産業	1,543		1,974		
第三次産業	177		167		
第一次産業	830		917		
第二次産業	1,364		1,670		
第三次産業	391		443		
第一次産業	4,305	28.4	5,171	33.5	+5.1
第二次産業	15,165	100	15,446	100	

35年国勢調査

人口	31,132	面積	76.06平方町
世帯数	6,545		

市制8年のあゆみ = 美濃加茂市沿革史 = (昭和29年4月～昭和37年3月)

美濃加茂市の沿革

飛騨、木曾川の合流する近くに古蹟石器時代が現われるが古書に現われ始めたのは開化天皇の朝に「三野前田」と呼ばれ、成務天皇の折「三野後田」となり、続いてその一部の平地が加茂郡となり、県主に開化天皇の皇子日子座主の子孫が当たったことが姓氏録にみられるが、太田町に式内郡社主神社に県主の祖神として奉祀されている。

大化の改新により加茂郡を置、加茂郡と呼び、この地方の文化の中心で時代の変遷とともに東山道の要衝として発展した。中世、奈良朝より武家南北が後白河院御領とし、郷には保に地頭、代官がおかれた。

戦国時代には承久三年、後白河上木曾川時にむかえ撃つた。豊臣氏の海内統一するや荘園を廃し郡、村となりこの時以来太田を始め現存する各地の地名が発生した。近世、江戸時代に一部尾州領となり、始め郡奉行をして治め元明二年四月、代官所を設け東濃民衆の中心となり、本陣宿場として関西諸大名の参勤交代、和宮の関東下向、武田勝頼の上洛給儀の東征等に重要な駅家として多数の往来があり、又一國政治の中心として多彩な歴史の頁をいろうつた。

幕府大政を奉還するとともに笠松県となり続いて明治四年七月廃藩置縣により、名古屋、今尾、笠松に分管されたが同年十一月岐阜県となり郡制を復活し、加茂郡役所が置かれ郡の中心となつた。(写真 太田の渡し)



り平安朝初期には美濃国賀茂郡神田時代に至り、荘園の発達に伴い蜂屋太田郷、鷹栖郷が見られる。荘園郷

昭和29年 (1954)

- 4月1日 理想的地方自治確立のため市制を施行加茂郡太田町、古井町、山之上村、蜂屋村、加茂野村、伊深村、三和村、下米田村及び和知村牧野が合併。
- 25日 初の市長選挙が行われ、渡辺栄一氏が無投票当選。
- 5月5日 端午の佳日、市制施行祝賀挙行。
- 6月1日 母子寮附設保育所及び古井第一保育所が開設。
- 8月3日 市消防署庁舎が落成。
- 8月14日 木曾川渓谷「日本ライン」県立公園指定。
- 10月23日 加茂野小学校々舎と屋内体操場が落成。
- 11月1日 加茂野保育所を開設。



市制祝賀式

昭和30年 (1955)

- 1月14日 山之上バス開通。蜂屋～加茂野、太田～三和線が延長。
- 16日 国道21号線市消防署前～太田小及び神明堂～太田橋間舗装完成
- 3月25日 初の市議会議員選挙が小選挙区制により行われ、立候補者49名中より30名が当選。
- 4月1日 牧野公民館完成、蜂屋保育所開設。
- 5月24日 三和小学校々舎完成、木造瓦葺二階建306坪。
- 7月26日 北中学校々舎完成、木造瓦葺二階建343坪。
- 8月15日 中小企業融資保証事業開始。
- 9月10日 鉄筋コンクリート三階建 431坪の 偉容を誇る山之上小学校々舎が完成。
- 10月10日 美濃加茂市を始め、中濃三市・四郡「集約農産地域」に指定された。



北中学校

昭和31年 (1956)

- 1月14日 伊深保育所が開設。
- 3月31日 国道21号線太田小学校前～深田橋間舗装完成。伊深橋水道第二期工事の水源地竣工。
- 6月15日 下米田保育所完成。
- 7月2日 市産業観光会館木造瓦葺二階建 141坪が木曾川畔に完成。
- 8月15日 美濃加茂市第一地域(太田、古井、加茂野、下米田)が新農村建設地域に指定を受けた。
- 10月8日 八消防団を統合改編し、市消防団を結成し十分団に改編。
- 14日 加茂野産農協により前平の家畜市場が完成。
- 12月28日 下米田西脇方面バス開通。



山之上小学校

昭和32年 (1957)

- 2月1日 高松宮殿下太田小学校御視察になり坪内通達誕生の地に記念植樹を賜わった。
- 3月16日 太田中屋内体操場完成、近代的な工法は建築界の注目を浴びている。
- 20日 伊深橋水道第二期工事が完成し、伊深町全地域に給水が実現
- 27日 市上水道建設事業着手。
- 4月9日 天皇、皇后両陛下には全国緑化大会に御出席のため行幸され、途中美濃太田駅御通過の際渡辺市長等地元奉迎者に御会釈賜った。
- 5月1日 三和保育所が開設。
- 4日 神田厚生大臣……上水道視察
- 8日 太田一原視一福道方面バスが開通しこれにより市内バス網の整備を終る。
- 10日 古井公民館(131坪)及び郷土館(34坪)が完成。
- 6月30日 市内8農業委員会(138名)を統合し26名の委員が無投票により当選決定した。
- 7月19日 皇太子殿下は「日本ライン下り」のため、本市に行啓になり午前10時50分御車にてライン公園に御到着産業観光会館において御少憩ののち、ライン公園乗船場にて、武藤県知事、松野県会議長、渡辺市長等と御乗船になり、渡辺市長の御説明を受けて天下の景勝ライン渓谷に御清遊になった。
- 8月1日 新市町村建設促進法に基く「モデル新市」として指定を受けた。



三和小学校



家畜センター

昭和29年美濃加茂市誕生以来満8年間、第一次建設計画の完遂について市勢伸張第2段階としての重大建設事業が相次いで完成し、市民福祉の増進と市の一体性を確立し新都市として躍進していることは一つに市民一歩協力の賜であります。

この8年間の成果のうえに立つてさらに木曾川を中心とした広域産業開発と産業振興を計り豊かな市民生活の実現を期する市政第3段階を迎えようとしております。この機会に市制8年間、渡辺市長のもとに3万市民が築きあげた成果などをアルバムに特集、今後の道程にいたします。



して指定を受けた。

- 11日 美濃加茂電報電話局が完成し、自動式になると合併し三和、伊深を除いて市内電話となる。
- 16日 大野副総裁就任祝賀式に参事。
- 30日 県家畜センターが前平地に完成。
- 10月2日 三笠宮殿下正眼短期大学記念式典参列のため市制施行三周年記念式典並びに市民運動会が前平
- 13日 われ、合併並に市政功労者に感謝状が送られた
- 11月13日 東京都体育館における地方自治施行十周年記念式設の成果を讃えられ自治市長官の表彰を受けた。
- 12月4日 加茂野電報局が総工費2億5千万円にて完成し、始した。

昭和33年 (1958)

- 2月27日 加茂野、三和線のバスが甘屋まで開通。
- 3月20日 渡辺市長三万市民の御望を担い無投票再任。
- 4月10日 山之上保育所竣工、入所式、これで全市に保育所
- 24日 蜂屋小屋内体操場竣工、これをもって各町の教育
- 5月1日 市の行政機構が改善され、市民のサービス部門の設置、市民相談室が開設された各地区の出張
- 5日 母子寮が不慮の災害にて全焼。
- 15日 上水道起工式水源地にて挙行。
- 7月28日 小山バス開通。
- 8月29日 岸総裁、大野副総裁来市。
- 9月1日 待望の上水道(3,100戸、15,500人に給水し、一日水を開始。
- 6日 国道21号線藤部一岐線の加茂川橋が総工費60X
- 13日 えに着工。
- 26日 三浦農林大臣農政懇談会に参事。
- 10月19日 国道名古屋一富山間の一級国道昇格が閣議で正式より一級国道41号線となることになった。
- 27日 第二回市民運動会が前平グラウンドにて盛大に開催
- 天皇、皇后両陛下富山県の国民体育大会御臨幸後になり、古井駅、太田駅にて御奉迎申し上げた。
- 11月11日 5月5日全焼した母子寮及び附設保育所が再建し
- 12月21日 電話が岐阜一美濃加茂自動即時通話となる。

昭和34年 (1959)

- 1月1日 加茂野駅前公民館落成。19日山之上農事センタで昭和31年度より3年間に亘つて新農村建設地1,690万円余にて果樹園灌漑、共同防除施設、有事業が全部完成した。
- 1月18日 飛騨、木曾川国定公園指定促進期成同盟会が本
- 26日 れ、会長に渡辺美濃加茂市長を選任し日本ライン公園を国定公園に指定を受けるよう運動することに
- 3月29日 市議会議員選挙が小選挙区により行われた。立候補者49名、その内訳は自民党23名、社会党1名、無所属
- 31日 モデル新市建設事業の昭和33年度事業は、野地原
- 4月1日 国民健康保険市全域実施。
- 6月26日 野呂県議定例県議
- 8月26日 会において木曾川
- 9月10日 右岸総合開発を主
- 26日 体とする水資源確保
- 27日 について発言。
- 台風第7号の影響
- による川浦川筋に
- 集中豪雨を受け、
- 橋梁の流失等5億
- 円余の被害。
- 渡辺市長、全国市長会を代表して参議院地方行政
- 促進法の期限延長を陳述。
- 史上空前の伊勢湾台風により、21時30分より
- 45m、気圧954ミリバールの暴風雨圏内に入つて
- 災害救助法発動。死者6名、全壊住家194、半壊
- 額20億円余。
- 上水道配水池古井町愛宕山に竣工(1,200トン)
- 伊勢湾台風による仮設住宅71戸、県下のトブを
- 伊勢湾台風については激じん地の指定等により公
- に投入した額は1億2千8百万円余のほり、公共施
- 円。市単独復興資金を初めとする融資は835件9.1
- は市見舞金を始め日赤等義捐金総計8百万円余義



昭和35年 (1960)

- 1月6日 加茂農林高校地鎮祭。
- 2月1日 古井、山之上、下米田中学校を統合する東中学校
- 3月7日 木曾川右岸総合開発調査に農林省189万円、県35
- 10日 初の名誉市民に本市出身の歴史学の権威者で、文
- 15日 右吉博士を推挙。
- 市重要文化財に瑞穂免類師如来外7点初の指定
- 4月1日 13米道路本日より2級国道藤部一岐線に編入
- 5月6日 新庁舎地鎮祭。設計溝口建築、工事請負清水建設

宝仙坊トンネル―木曾川大橋―

小牧の重要産業道路開発など審議

『中濃地域開発懇談会』

中濃地域開発計画の最終
審議をする中濃地域開
発懇談会が二月二十二日午
前十時より美濃加茂市市役
所会議室に於て、関係市町
の公家杉村次長や関係議長
ら出席し、被辺美濃加茂市
長を会長とする中濃三市四
市の関係県議、関係市町村
長、委員五十五名が出席
して開議された。路上被辺
市長挨拶のあと、吉井金鑑
議長より県下各領域の現況

分析等説明あり、続いて
地区より県産業開発計画
方年計画への要望が発表さ
れた。加茂市としては
の通り

「道路基盤」
1美濃―美濃加茂―木曾
大橋「可児―小牧―名
屋、一級国道の急激に
加する交通量に対し、
井町より土田へ二十一
級及び二級国道が併用
されているので、これを太
より木曾川大橋の架設

より四十一号線のバイパスを兼ね、且つ本地区を東西に最短距離で繋断する重要な産業開発路線として開発。

2 美濃加茂—八百津、恵那線の県道改良。

3 美濃太田駅を中心に岡多線、越美線の開発接続。

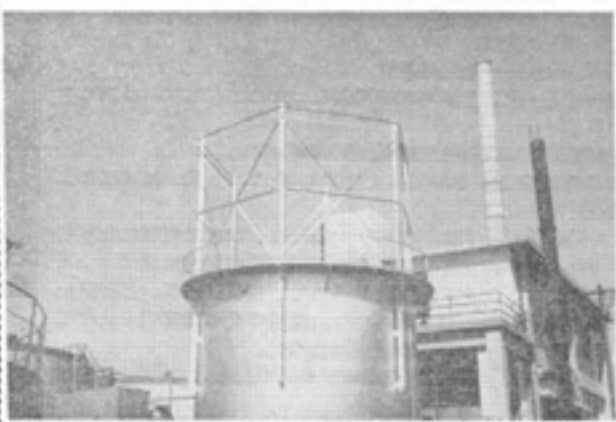
〔農業〕

農業構造改善の施策と木曽川右岸用水土地改良事業の促進。

等があげられた。

これ等の要望に基づいて県統合開発審議会の数枝計画案に盛り込まれ、全体計画を樹立して熟知事に等申され「岐阜県産業開発十ヵ年計画」として開発される。

工検査をまつて、
よいと運転を開始し、
することになり、
これにより多年市
民の悩みの種とな
っていたし尿やマ
ミ問題が解決し、
下水道とともに理
究明した明いし尿
の条件を整えた。
対象人口は三万五
日最大三六キロ
ゴミ焼却一日十
力をもち、衛生セ
た、し尿はガス、



上ずる液、汚泥の三つに分解され、上ずみ液は復雑な行程を経て殺菌され消化効率が他の施設より良く衛生と無害となつて放流される外は汚泥は操作用の後、乾燥肥料となり

上麻生取入地に第一号クイ

標高タイと、さらに百米毎
に水路標柱を打ちこまれる
ことになり、本地域産業開
発の重要な鍵としてその実
現に一大大きく前進するこ
とになった。

盛大に市農業振興大会開催

＝一大主産地形成など決議＝

市農業改良組合長さん二百余名が出席し、市農業振興大会が三月五日市中央公民館で開演され、折から国の農産物増進改善一地区指定。本曾川右岸直轄調査と測量の開始。農業企業化資金の貸出、市農業振興の臨期的増強など市農業にかつてない果下に誇る農業王国として、絶好の有力な条件のなかで会場は終始希望に燃れた雰囲気につつまれ、換

的な技術を獲得することゝ有為な農村青年の養成が重要であり、資金導入のまゝに土地基盤の整備をはかることが先決である」と講演。

つづいて協議に入り、農業振興を速決的拡大するために昭和四十年までに各企業別の生産目標を次のように定め、この達成に努力することを決定した。

乳牛八五頭を二、八二

農業構造改善

一般地域に指定される

一億円余を投入儲かる農業へ

昨年制定された農業の憲法ともいわれる農業基本法による新しい農政として、全国農家の注目している、市町村に一億円を投入し、農業経営の近代化と農業技術の革新、農業生産の選択の拡大をして農村を一大転換させようという農新構想の改善地域が三月二十三日、林省において発表され、余を投入し市農業の体質を根本的に改善し企業的にものかる農業にすることになり、市内農家三千戸の一大福音となり嬉々の機会として、多大の期待が寄せられている。

なお、この構想改善事業とならんで主産地形成と企業化の促進を計かる、全国一低利といわれる農農業企業

渡辺美濃加茂市長と

杉戸名古屋市長初通話

名古屋等重要な産業地域と周辺地域との即時通話による通信網の拡充が進められていたが、三月十五日特設の名古屋との即時通話が開始され、注目のうちに渡辺美濃加茂市長と杉戸名古屋市長が初通話として、中部経済圏の両市の友好と繁栄を語るのを最初として、自動計器は本拠地産業のパロライターとして活動することになった。

なお名古屋にかけるには「02」を廻わした後馬番と先方の番号を、名古屋より美濃加茂は「0742」

【農村公衆電話大巾に増設進む】

市内全町二十ヶ所にわたる農村公衆電話の布設が進まれ、十一月までには全設置が完了する予定である。

【即時通話漸々と進む】

次の日程により周辺地区との即時通話が進められている。

二月二十五日
郡加日市外局番、0883を廻し、市内局番82次し先方の番号笠松「0833」を廻わし次に先方の番号羽島「0835」につい

指定をまつ

飛驒木曾川国定公園

飛騨木曾川自然公園を国定公園にするよう岐阜、愛知両県及び二市四郡十カ町村の期成同盟（会長渡辺美濃加茂市長）によつて四年前より運動が続けられているが、その内定を間近に控えた本地域の観光開発のために多大の期待が寄せられて

一月二十六日より厚生省
自然公園審議会計画部会に
いて、全国より申請され

る十四日より青野、藤井、
荻原、佐藤の四委員が現地
調査に来県されるが、その
後の審議会で、国定公園指
定が内定される模様であり
限では二月中旬より太田集

木野集團果樹園づくり進む

すでに先号で紹介した黒崎
助及び企業化資金等による

長は厚生省の
得に陳情協力する
陳情説明する
実現に最終的
られている。

加茂野町木野
づくりは、一
式よりブル
り開墾され
会長の山本
め三十三区

木野集団果樹園づくり進む

すでに先号で紹介した黒糖
助及び企業化資金等による



櫻に立の渡辺市長は市
 農政につき「曲別的な
 農政を強力に未端まで
 浸透させ、今こそ個か
 る農業に体質改善をす
 べき重要な段階がき
 た」と諸問題を述べ、
 また市農業近代化審議
 委員である岐大太田教
 授より「農業構造改革
 の進め方として、基礎

九頭に(伸長率三四八%)
 成豚五、二二七頭を一、
 五九〇(三七四%)
 鶏一〇八千羽を二二五千七
 百羽(二〇九%)
 鶏三百トンを六一六ト
 ン(二〇五%)
 柿六八三トンを七四〇ト
 ン(二〇九%)
 しいたけ一九トンを六〇ト
 ン(三二二%)



つて六千五百本に及ぶ富有樹の植栽が進められており、五年後には三百トンを出荷し一千万円の収入をあげようと張りつてゐる。これをモデルグースとして山之上より続く丘陵地帯一三〇ヘクタールに及ぶ富有樹の一大生産地に期待がかけられようとしてゐる。